



超高齢社会へと進む中、働く意欲のある高齢者が増えています。そんな高齢者の知識や経験を生かせる場所の一つが老人クラブです。

現在、町老人クラブ連合会長として活躍されている中屋さんにお話を伺いました。



No.295

豊かなる第二の人生

定井手自治会 中屋 智暉

趣味・スポーツ・奉仕活動などを通して
仲間との絆を深めています。

わたしはこれまで、忙しいながらも楽しい家庭生活を送りつつ、社会の一員として責任を果たしてまいりました。長年勤めた会社も定年退職し、張り詰めた気力を失いかけていたそんなとき、老人クラブの存在を知り、そこで活動することで私の第二の人生はより豊かなものになりました。

わたしたち田布施町老人クラブ連合会は、現在18の単位クラブで構成され、会員数は約750人です。年間を通していろいろな行事を企画し、実施しています。では、ここでわたしが体験している楽しい活動内容を、いくつかご紹介します。

仲間づくりと生きがいを求めて始めたカラオケ教室では、男歌・女歌のほかデュエットなど、さまざまな曲にチャレンジしています。そしてその成果を、2月に行われる『のどじまん大会』や、4月の発表会で披露しており、とても賑やかなひとときを過ごしています。

スポーツにおいてはの楽しみは、グラウンドゴルフです。ゴルフのようにボールをクラブで打ち、ホールポストと呼ばれる輪の中にホールインするまでの打数を数える競技です。ルールも簡単で、ゆっくり歩きながらできるので、高齢者でも無理なくプレーすることが出来ます。年に数回行われる大会では、参加者全員が自己ベストスコアと優勝を目指して頑張っています。

また、毎年恒例のレクリエーション大会では、ウォーキングや室内競技などとともに汗を流し、研修旅行では互いに親睦を深めています。今年は1泊2日で玉造温泉方面へ向かう予定です。

そのほか、老連女性部による福祉施設への友愛訪問や、地域の人と協力して公園の清掃をするなどの社会奉仕活動も行っています。

仲間との絆を深め地域で活躍し、今までに培われた技量と経験を若い人たちに継承していかねければなりません。そのため

にもぜひ、老人クラブに入会し、会員同士見守り支え合い、楽しく有意義な第二の人生を過ごそうではありませんか。

ご賛同くださり、興味を持っていたいた人は、高齢者いきいき館(☎51・0221)までお問い合わせください。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。



▲ グラウンドゴルフの様子

人間模様

田布施町民生委員
児童委員協議会 会長

中村 享郎

民生委員として活動していき
すとさまざまな境遇の人とお会
いします。これから将来に向け
て成長していく子どもさんや、
お仕事を定年された高齢者の人
や生活にお困りの人、介護に直
面して悩んでおられるご家族な
ど、社会福祉を通して人生いろ
いろだなあと教えられます。

我が家、わが人生をしみじみ振
り返ってみますと、長男は障がい
を抱えながら、次男・三男は社会
人として成長してくれ、家内の苦
労にも感謝せずにはいられません。

わたしは20代のころ人間を描
く俳優の仕事を学び生活してい
た時期がありました。人生を模
索していた時代とも言えます。
言葉を変えれば人間の幸せを追
求していたのだと思います。

喜びをもって生きていく、そ
の過程には思いもかけない出来事
が試験として出てきます。それを
感謝で受けて笑顔で送ることがで

きるときに、本来の人生を歩むこ
とのありがたさを実感します。

55歳から、またお芝居を田布
施で始めて10年が経ちました。
縁あって大阪の落語一門とい
う話で、この度古典落語百二十
話を読みました。熊さん八つ
つあんの長屋庶民人情話など、
色んな含蓄ある落語って面白い
と前から思っていました。が、そ
んな中で『ねずみ』という噺。

ある大店の旅籠屋の主人は5
年前に女房に先立たれ女中頭を
後添えに、ある日彼が2階から
落ちて腰は立たなくなり継子い
じめされる一人息子、番頭と後
添いに騙され店を乗っ取られ、
追い出された物置で小さい旅籠
屋を始める。そこに旅の左甚五
郎が泊り事の経緯を聞き、鼠を
彫って看板にしたところ繁昌す
る。形勢逆転して番頭は甚五郎
と曰く因縁の彫物師に虎を彫ら
して鼠を睨むように据えたところ、
ちよろちよろ動いていた鼠
がぴたっと動かなくなった。サ
ゲは虎が猫に見えたという…。
お芝居も落語も人として生き
ていく希望を与えてくれるもの
だと思います。只今支度中でござ
います。皆さまの前で演じる日
を楽しみにしています。

No.187

サークルスケッチ

石城歌謡教室

- 講 師 二宮 唄子
- 日 時 毎週金曜日
午後1時～午後3時
- 場 所 城南公民館
- 代 表 者 山本 小夜子
- 問合せ先 ☎52-1841



毎週金曜日の午後1時近くに
なると、笑顔であいさつを交わ
しながら城南公民館に集まって
いるのは、平成3年から26年間
続いている、二宮唄子先生率い
る石城歌謡教室の12人の仲間た
ちです。この2年間で4人入会
し、新たな活気であふれていま
す。

二宮先生は、歌が大好き、そ
の思いをわたしたちに向けてだ
くさっているのではないかと思
います。明るくはつきりとした
性格そのままの指導方法、口か
らポンポンと出る言葉に、わた
したちは笑い、うなずき、悩み、
言葉とともに先生独特な手の振
り『魔法の手』を理解しようと
真剣そのものののですが、先生
の言葉が飛んできます。「国語
の勉強じゃないのよ。文字ばか
り見ても歌い方は書いてないで
しょ。わたしを見てください!」
「口は開いてる?」「顎は落ち
てます?」「声はお腹から出て
る?」「間違いないじゃないけど正
しくない。」…きりがありませ
ん。頭ではわかっていてもマイクを
持つと思うようにできないのが
現実、でも、楽しさも現実です。
先生の優しさと、的確で力強い

指導にひかれ、自分たちの年齢
も体の不調さえも忘れて頑張っ
ています。何事も相談し合い、
励まし合いながら、絆を大切に
石城歌謡教室は続きます。

